（様式４）

令和８年３月２６日

富山県教育委員会教育長　殿

学 校 名　富山県立高岡南高等学校
校長氏名　出口　信夫

令和７年度学校総合評価を別紙(様式５)とともに提出します。

令 和 7 年 度　　学 校 総 合 評 価

６　今年度の重点目標に対する総合評価

今年度は、「学習活動と進路支援」、「学校生活」、「学校の活性化」、「SOUTH 探究プロジェクト」「人文科学コースの活動推進」の５領域で重点項目を決め、それぞれ達成目標を定めて取り組んだ。

（1）　学習活動と進路支援

生徒との個人面談は学期、時期を問わず綿密に実施されている。生徒によるアンケートの結果をみても学年が上がるたびに綿密な指導が行われている。授業においても満足度が高く、課題の取り組み状況もよいが反面、復習への取り組みが全学年とも低く、学習習慣の定着が今後の課題である。

（2）学校生活

南高校生とはいかにあるべきかを生徒自身が主体となって、社会性や公共性と関連付けながら考え、それらの意見を持ち寄って共有し、実践していくといったルールの順守やマナーの向上のためのサイクルが確立できた。

（3）学校活性化

生徒が主体的に学校行事を計画・参加できるような行事の運営体制が確立できた。教師の側もできる限り、生徒のアイデアを実現できるように協力し、互いの協力体制が確立できた。はじめは不安そうであった生徒も、責任を与えることで徐々にアイデアを出し合い、主体的、協働的に参画する姿勢が見られるようになった。

（4）SOUTH 探究プロジェクト

１年次にアントレプレナーシップや地域探究、２年時に大学連携講座など、学年に応じて適切な内容の課題を与えることで、情報活用能力などの探究リテラシーを身につけることができている。生徒一人ひとりの興味関心も重視しながら、学校として生徒に身につけさせたい能力について常に検討している。

（5）人文科学コースの活動支援

授業「文化と情報」では、文系教科に興味関心を示す学校行事を実施した。その結果、全員の生徒が表現力やコミュニケーション能力が高まった。特に１２月に実施したウインターセミナーでは、２学年人文コースに所属する生徒の英語でのプレゼンを学校評議員の方々にも参観していただき、クラス全体が協働して課題に取り組む姿勢に高い評価をいただいた。また生徒自身も人文学の学問的意義を理解し、自己の成長を感じることができる活動内容であった。

７　次年度へ向けての課題と方策

（1）　学習活動と進路支援

「進路と学習のアンケート」を１学期末に実施し、生徒の学習の実態や学年間の比較・分析がしやすくなった。今後は、これらの結果を踏まえ、更に面接指導で知りえた内容などを活用し、更に学習に対する動機付けから最終進路決定まで、切れ目のない指導体制をいかに構築していくかを考えていかなければならない。

（2）　学校生活

南高校生としての自覚をもち行動することで、地域社会に求められるリーダーとしての能力を高めていくにはどうすればよいかを考えさせていきたい。また、朝食摂取という日常ありふれた事象から、規規則的な生活習慣の確立は、ゆくゆくは心の健康に繋がることを意識させ、健康的で活発な学校生活を過ごすことできるように意識させる。

（3）　学校活性化

現時点では生徒会執行部が中心となり、行事の企画・運営に取り組み、成果を上げているが、将来的にはすべての生徒が何某かの行事に中心となって、企画立案から運営まで携わるようにし、その体験から培ったリーダーとしての素養を社会に出てからも生かしていけるようにしていきたい。また、図書に関する活動もさらに多くの生徒が参加できるようにブラッシュアップしていきたい。

（4）SOUTH 探究プロジェクト

「ＳＯＵＴＨ探究プロジェクトは導入以来、高い成果を上げているが、近年は県内外の先進校や大学などの研究機関や社会から生徒らに求められる探究能力も高度かつ多岐にわたるようになっている。探究滑動については、今後さらなる研究を重ねることで、質の向上を図っていきたい。

（5）人文科学コースの活動支援

１年次から人文コース予定者の活動を充実させることで、コースへの所属意識を高め、かつ高度な活動内容に取り組ませることができる。２年次からは外部との活動を増やしていくことで、コースの活動内容を充実させることができると考えられる。「文化と情報」の授業では、３年時にこれまでの学びを総合しながら、データ分析に基づいた考察や発表を行う内容となるよう、充実させていきたい。

（様式５）

５　今年度の重点課題（学校アクションプラン）

	令和７年度高岡南高校アクションプラン　－１－
重点項目	学習活動と進路支援
重点課題	・日々の授業を通じて学力を伸長することを学校全体で共有し、生徒の進路志望と実態に即した学習活動となるよう工夫する。 ・面接週間を中心に、こまめに生徒との面接を行い、生徒の主体的な学びと自己実現を支援する。 ・生徒の進路支援のための『全校態勢』のあり方を研究する。
現　状	・本校の生徒ほとんどが大学進学を志望している。中学までは与えられた課題にまじめに取り組むことで好成績をあげてきた生徒が多いが、自らの進路について明確な目標を持っている生徒は多くない。 ・生徒自身が主体的に自らの将来を見据え、自己の適性・能力を認識しながら主体的に学ぶ姿勢を育成し、入試に対応できる学力を身につけることができるよう支援する必要がある。 ・生徒の進路支援を全校態勢で取り組んでいるが、教員の多忙化の中、学年や担任への負担が大きい。どのような態勢をとることが必要か全校で考えていく必要がある。
達成目標	（１）進路意識向上のための面接指導を、各学年概ね６回以上実施する。 （２）平日の家庭学習習慣を確立する。平日は１年生２時間、２年生３時間、３年生の６月以降４時間、休日は１年生５時間、２年生６時間、３年生は６月以降８時間を確保できるよう支援する。 （３）生徒の進路支援のための『全校態勢』のあり方について検討を重ねていく。
方　　策	（１）学期初めの面接週間、各種テスト後の成績を渡すタイミングなどに個人面談をこまめに行う。 （２）「授業の予習・復習・週ごとの課題」を中心とした学習習慣の確立を目指す。課題は、学年と教科が連携を図り、個個の習熟度に応じた取り組みができるよう設定する。 （３）各学期末に進路と学習についてのアンケートを行い、生徒の現状や目標達成度を検証する。 （４）学校訪問や学年部会、教科部会などを通して、効果的な体制作りのための意見集約と検討を行う。
達成度	・個人面談は時期を問わず細やかに行われている。アンケートによると１年は 80%、２年生は85%以上、３年生は95%以上がよく行われていると回答した。学年が進行するに従い、より綿密に進路指導を行われている。 ・授業への質的量的満足度は各学年 85%を超えており、学習意欲向上に良い影響を与えているといえる。 ・全学年とも課題の取り組み度が高く（80%前後）予習は学年が上がるにつれて取り組みが良くなる一方、復習への取り組み度は全学年とも低い（60%前後）。また、１年生は「課題の分量が適切である」とする生徒の割合が他学年に比べて低い。原因を分析し、生徒に合わせた声かけや課題の設定を工夫していく必要がある。

これまでの具体的な取り組み状況	・１学期末に「進路と学習のアンケート」を実施し、職員会議、校内で、特に学年担当者以外にも情報へのアクセスがしやすいよう工夫した。 ・全校態勢の推進のため学年や担任にどのような支援が必要かについて学校訪問時に課題を出し合い、解決に向けて工夫をしている。	
評　価	A	生徒、保護者の受験に対する意識の変化に柔軟に対応しつつ、 進学校としての本校に期待される役割に応えることができるよう、学年、分掌間の密な連携を心がけた。今後も生徒の進路志望と成長をしっかりと支えていきたい。
学校関係者の意見	本校は教師と生徒との距離が近く、信頼関係が確立している。これが本校の強みであり、授業や生徒の学習態度にも反映されていると感じる。これからも「全校態勢」で学習指導・進路指導を行っていきたいと考えている。	
次年度へ向けての課　題	・学習と進路に関するアンケートにより、生徒の実態の学年間比較・分析がしやすくなった。学年や時期によって生徒がどのように意識や意欲が変化するかを把握し、変化の要因を生徒の普段の行動や面接などからくみ取り、生徒の進路選択に活かしていきたい。 ・本校で行っている探究的活動と進路研究の連携を深め、生徒の将来に向け、より深い学びと成長に寄与できる態勢を工夫していきたい。	

(　)評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった

	令和７年度高岡南高校アクションプラン　－２－
重点項目	学校生活
重点課題	（1）自己教育力を高め、自主自律の精神に満ちた品格ある集団の育成。 （2）生活のリズムを整える食習慣の定着。
現　状	（1）規律ある行動として「挨拶の励行」「時間厳守」「身だしなみ」「公共の場でのマナー遵守」「スマートフォンの適切な利活用」を挙げている。今年度は特に、社会的なルール・マナーの意識の向上とマナー遵守の実践に主眼を置きたい。 （2）健康的で活発な学校生活を送るための方策の一つとして、朝食摂取の習慣化を掲げている。それによって脳や身体機能を目覚めさせ、集中力をもって日々の学習活動ができるよう生活のリズムや心と体のバランスを整えていく必要がある。
達成目標	（1）社会的なルール・マナーを守り実践する。　９０％以上 （2）朝食を毎日とる習慣が身についている。　９０％以上
方　　策	（1）①生徒校紀委員を中心に各クラスの「行動指針」策定し実践する。 ②「社会的なルール・マナー」についてアンケートを実施し、理解度を高め、実践していく生徒を増やしていく方策については、生徒間で策定したルールを守る形とし生徒の自主性を尊重する （2）朝食を始めとした生活習慣の実態を把握し、朝食の重要性について機会を捉えて啓蒙するとともに、食習慣をはじめとして生活習慣を考えさせる機会を設ける。

達成度	（1）　社会的なルール・マナーについてのアンケートについて実施。 社会的なルール・マナーを守り実践する。　　９２％ （2）11 月 13 日に保健統一ホームルームを実施。1 年生に朝食・睡眠の重要性をテーマに講演会を開催した。朝食についてのアンケートを実施した結果、「朝食を必ず採る」と答えた生徒の割合は 91％であった。
これまでの具体的な取り組み状況	（1）・新入生オリエンテーションで「マナーセンスアップ教室」を実施 ・生徒校紀委員を中心に各クラスの「行動指針」策定。 （マナーついての意義・社会人としてのあり方について学ぶ） ・「スマートフォン等の利用等に関する調査」についてのアンケートを実施し共通理解度を高める。 ・9 月生徒総会で執行部よりスマホのルールとマナーについて再確認 ・4 月、9 月に「マナーセンスアップ週間」実施。(PTA 役員、生徒会) （2）・保健だより等を通しての啓蒙活動。 ・総合病院勤務の栄養士を招いての講演会。
評価	A　生徒が自ら考え実践していく過程で、他を思いやる心や自立心を育むことに結びついた。
学校関係者の意見	・生徒が中心となって行動指針を策定し、釈迦的なルール・マナーの順守を心がけている点は評価できる。今後も自らを律する心を養っていってほしい。 ・生徒が日ごろから生活習慣の確立に努め、健康な学校生活や学習活動を送られるよう留意している点は素晴らしい。
次年度に向けての課題	（1）　南高校生らしい品格の概念の共有。生徒相互間のふれあいを求め共生の心や人としての望ましい品格の陶冶に努める。 （2）　朝食を始めとした毎日の食生活を大切にし、生徒自身が判断して健康に留意した学校生活が送れるように支援していく。

（　）評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった

	令和 7 年度高岡南高校アクションプラン　－3－
重点項目	学校の活性化
重点課題	（1）行事・部活動を通じて自ら創意工夫に努め、主体的に行動できる生徒の育成 （2）読書活動の推進 （3）ホームルーム活動などを通じてのボランティア活動の推進
現　状	（1）学校生活を意義あるものにするために、生徒一人ひとりのアイデアと主体的な姿勢が一層求められている。 （2）図書の貸出冊数は減少傾向にある。（生徒一人 R4 3.8 冊、R5 5.3 冊、R6 2.4 冊） （3）奉仕の精神に富む生徒が多く、ボランティア活動には意欲的である。
達成目標	（1）生徒が自ら考え、生徒が動くことで形作られていく学校生活にするために、学校行事において多くの生徒が工夫を凝らし、達成感と自らの成長を実感できるものとなることを目指す。 （2）図書の総貸出数が年間 1900 冊(生徒 1 人あたり 4 冊)以上を目指す。 （3）生徒一人ひとりがボランティア活動に年間一回以上参加する。
方　策	(1)生徒一人ひとりに対し、高校生活が創造力と主体性を発揮する絶好の

	機会であると捉えさせる。行事ごとに振り返りの機会を持つように努め、併せて様々な場面で声かけと側面からサポートを心掛ける。 （２）①学年と連携し、朝読書の時間を充実させる。（朝読書用の書籍を図書館から継続して選んでもらう。朝読書に好適な書物の充実を図る） ②授業や探究活動における図書館書籍の活用が推進されるよう支援する。 ③趣向を凝らしたＰＯＰの作成や新着図書案内、校内掲示板の活用などの広報活動に努める。 （３）ホーム・ルーム活動等を利用し、各学年・クラス単位で校舎内外・戸出地区における清掃作業等のボランティア活動の積極的な企画・実施を推進する。
達成度	（１）生徒が主体となって計画し、合唱コンクール、体育大会、南高祭を実施した。また、各学年の球技大会も、生徒の自主性が見られた。当初は試行錯誤しながらも、懸命に努力して運営に当たる生徒の様子が見られた。（事後、達成感を得られた生徒　合唱コンクール 98%　体育大会 98%　南高祭 99%） （２）1 月 31 日現在の総貸出数は 745 冊（一人当たり 1.7 冊） （３）7 月の七夕祭りの後の清掃ボランティアには、生徒会や各クラスのボランティア委員約 30 名が参加した。3 学期の除雪ボランティアには 1 年生の 2 クラス(80 名)が参加した。
これまでの具体的な取り組み状況	（１）生徒が主体的に学校行事を計画、運営できるように、教員も一緒になって協力し、他者と共同していく中で主体性を育んでいけるよう指導にあたった。 （２）ブックフェアの実施（貸出冊を増やす　貸出期間の延長）、掲示板・展示スペースによる広報活動　（職員室横廊下　生徒玄関　校長室横）ビブリオバトル、教養講座など各種行事の充実 （３）生徒会や各部に地域団体からの依頼を紹介したり、ホームルーム計画の立案の段階で、計画に取り入れたりした。
評価	B　学校行事全般において、生徒一人ひとりが主体的に行動しようとする姿勢が見られた。ボランティア活動をホームルームにうまく組み込めず、1 人当たりの回数がやや少なかった。
学校関係者の意見	・学校行事等の特別活動において、生徒が節度を保ちつつ主体的に活動している姿勢は評価できる。 ・読書離れが問題となっている昨今、ビブリオバトルなど生徒が興味関心を高められるような行事を行い、読書の啓蒙に努めていることはすばらしい。
次年度に向けての課題	（１）全生徒が執行部とともに主体的に行事の企画・運営に取り組む姿勢をとっていけるように考えていく必要がある。 （２）図書関係の各行事のいっそうの充実を図り、本に触れる機会がさらに増えるよう、工夫していきたい。 （３）ホームルームや生徒会でボランティア活動を推奨して、計画的に実施できるようにしていきたい。

（　）評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった

	令和７年度高岡南高校アクションプラン　－４－
重点項目	ＳＯＵＴＨ探究プロジェクト
重点課題	「ＳＯＵＴＨ探究プロジェクト」の深化を目指す。スクールポリシー「ＳＯＵＴＨ」を実現するために、地域企業・自治体・大学・ＰＴＡ等と連携し探究活動を行い、情報発信力や課題解決能力を育成することを目指す。また、探究的な活動を通して、将来の社会とのかかわり方の視野を広げ、生徒のキャリア教育に資する。具体的には３つの探究「心の探究」「アイデア提案型探究」「テーマ研究型探究」を実践する中で、「生徒の心のエンジンを駆動する」プロジェクトを行う。
現　状	「ＳＯＵＴＨ探究プロジェクト」では、探究的な活動を行い、１学年では行政と連携し地域課題をテーマに探究の手法を学ばせている。２学年での大学連携により探究力・自己発信力の伸長が期待されている。学びに向かう姿勢や高みを目指して挑戦する姿勢を高めるためにも、このプロジェクトを系統的に再編・組織化し、伸ばしたい力を計画的に育成する必要がある。
達成目標	「ＳＯＵＴＨ探究プロジェクト」を通じて、探究力・自己発信力が育成された生徒の割合　８０％以上
方　　策	「総合的な探究の時間」「理数探究」「ＨＲ」を活用して実施する。 ①　１学年 課題の設定や情報活用能力など探究リテラシーを身につける。 ・イノベータープログラム（アントレプレナーシップ講座・グローバル講座）を実施しデザイン思考を学び、マインドセットを行う。「心の探究」 ・地域探究・・高岡市と連携し、身近な地域を課題にして探究し「課題設定力」「ロジカルシンキング」を学ぶ。また将来の社会とのかかわり方へと視野を広げる。「アイデア提案型探究」 ②　２学年　１年間を通して学術型探究活動を実施する。 ・大学連携講座Ⅱ（探究的な活動Ⅱ）・・・富山大学と連携し、将来進む可能性のある学問分野に関係した研究活動等を体験する。仲間と協働しながら、課題を発見し解決していくための資質・能力を育成し、探究力・自己発信力を身につけさせる。理系に於いては更に数学的な見方・考え方や理科の見方・考え方を組み合わせる。「テーマ研究型探究」 ③　３学年　データサイエンス講座により、探究力を高める。 ④　大阪大学実習（希望者研修）イノベータープログラムを実践する場として大学実習を実施予定である。 ⑤　プロジェクトの評価と改善を行い、伸ばしたい力について学校全体で共有をはかる。
達成度	「ＳＯＵＴＨ探究プロジェクト」を通じて、探究力・自己発信力が育成された生徒の割合　８３．５％
これまでの具体的な取り組み状況	３つの探究を学ぶプログラム（心の探究・アイデア提案型・テーマ研究型）となっている。アントレプレナーシップをベースとして心のエンジンを駆動するプログラムが確立した。 ①１学年 ・イノベータープログラムを入学当初（４～６月）に実施し、マインドセットを行い、デザイン思考を身につけると共に、学びに向かう力や挑戦心を高めことができた。 ・地域探究・・・今年度は行政課題について取り組んでいる。まず高岡市連携講座

	を７月・９月・１０月の３回実施した。７月は高岡市との連携によるアントレプレナーシップ講座。９月は高岡市の総合計画やデータについて、１０月は高岡市の政策について深く学んだ。次に探究リテラシー講座を行い、大学・公益財団法人より講師を招いて課題を設定する力・ロジカルシンキングなどの探究力を身につけた。「政策を知る」「社会課題を考える」「解決策を作る」の一連の活動を通して生徒が探究を自走できるようになった。（補助的に生成ＡＩを用いる試みを実施）１２月に自治体・企業・ＰＴＡ等の学習支援を受けフィードバックを行い、１月には発表会（公開授業）を実施した。 ②２学年 ・大学連携講座Ⅱ（探究的な活動Ⅱ）・・・富山大学と連携し、５月に大学訪問、７月・１１月に大学より講師を招聘して報告会を実施した。１月にはポスターセッションによる、発表会を実施した。「ＳＴＥＡＭ教育」を意識した発表が多く見られるようになり、生徒の自己発信力を高めることができた。１月３１日に一部生徒が富山探究フォーラムにて発表した。 ③３学年 ・探究的な活動Ⅲ（データサイエンス講座）・・富山大学と連携し、６月に発表会を実施した。具体的なデータを用いて説得力のある発表を行うことができた。 ④１・２年希望者研修。８月に大阪大学外国語学部に生徒を派遣し大学実習を実施した。 ⑤各種調査を実施し、プロジェクトの評価を実施していて、伸ばしたい力について学校全体で共有をはかっている。 ・海外研修（アメリカ合衆国）は令和８年度実施に向けて準備を進めていて現地での課題研究を行う中で、コミュニケーション力、国際的視野、挑戦心を身につけることを目標としている。
評価	A　イノベーター講座で生徒の挑戦するマインドの醸成、また地域探究連連携講座で地域との連携を深化し、大学連携講座Ⅱにて生徒の探究力（情報発信力や課題解決能力）を高めるとともに、地域・世界で活躍する人材の育成に寄与した。
学校関係者の意見	・地域課題や大学連携による探究活動を通して、生徒の発達段階に応じたプログラムが準備されている。ここで培った研究手法や能力を生かして、将来は大学進学等の進路決定をはじめ、社会の各分野で活躍できる人材として、さらなる成長を期待したい。
次年度に向けての課題	「SOUTH探究プロジェクト」も５年が経過し、探究のアップデートが必要である。総合的な探究の時間に関する目標・内容の構造化等を研究し、OECD「カリキュラムの（リ）デザイン」（教科横断性・真正性・生徒エージェンシー）を参考に仮称「SOUTH探究プロジェクト2.0」を構想する予定である。

（　）評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった

	令和７年度高岡南高校アクションプラン　－５－
重点項目	人文科学コースの活動推進
重点課題	（１）授業内容を学校全体で共有し、教科間や外部の教育機関との連携をとりながら、効果のある学習活動となるよう内容を充実していく。 （２）体験学習を中心に専門的で特色のある学習や活動を取り入れ、国内だけでなく世界において、リーダーとして活躍できる総合的な能力を身に付けさせる。

現　状	(１)授業と校外校内学習を連動して深め、生徒の能力を伸長できるよう日程や内容を計画・工夫している。 (２)授業「文化と情報」担当者が内容を計画し実施しているが、その内容が校内ではあまり周知されていない。
達成目標	・人文科学コースの授業「文化と情報」で表現することの関心・意欲とコミュニケーション力が高まった、と感じる生徒の割合が 80%以上。 ・校内での授業やセミナーの参観者　のべ 30 人以上。
方　　策	(１)授業「文化と情報」（２，３学年） ＜2 学年＞ ・セミナーでの学びを参考に、自身の研究テーマを設定し、調べた内容を日本語や英語で表現する。また、その成果発表を効果的に行うために、様々な技法や ICT 機器を利用する。 ＜3 学年＞ ・これまでの学びを総合的に駆使し、自身の課題を発見し調査研究を進め、データ分析をしながら解決策を導き出す。最終的には英語でプレゼンテーションと質疑応答を行う。そのため本校卒業生が協働活動支援員として生徒をサポートする。また、その成果の発表を効果的に行うために様々な技法や ICT 機器を利用する。 (２)校外校内学習「セミナー」（１，２学年） ①サマーセミナー、スプリングセミナー ・教育機関や博物館などの施設で専門的な体験学習を行い、人文科学系の世界に触れ、興味のある分野の知識を深める。 ・人文・社会・国際系で活躍している人の経験談や専門的な話を聴き、ワークショップを通して、国際・社会についての視野を広める。 ・探究活動やプレゼンテーションについて学ぶ。 ②ウインターセミナー ・外国人留学生との意見交換や交流を通して情報発信力、プレゼンテーション能力を高める。また、規律ある態度、責任感、連帯感を培う。
達成度	・人文科学コースの授業「文化と情報」で表現することの関心・意欲とコミュニケーション力が高まった、と感じる生徒の割合　前期 100% ・校内での授業やセミナーの参観者　のべ 52 名 ・担当者会議・打合せ　５回 昨年の会議内容をもとに、今年度は打合せをしながら改善を進めている。
これまでの具体的な取り組み状況	・授業「文化と情報」では 2 年生は 6 月短歌バトル、7 月ビブリオバトル、ディスカッションを行った。後期は台湾高校生と自国の文化紹介を行い、1 月には関心の高いテーマでプレゼンテーションを行う予定。3 年生は一学期に「日本の社会問題」について調査研究し、２学期はＣＮＮニュースを聞くことで海外事情を考察している。 ・７月に２年生でサマーセミナーを行い、公文書館や図書館など公共施設での学びを深めた。12 月のウィンターセミナーでは２年生が３日間の外国留学生とのディスカッションを英語で行う。1 年生の人文予定者は三校合同課題研究発表会に参加し、プレゼン方法を学ぶ機会とした。また、３月にはスプリングセミナーで国際交流員や立山博物館学芸員に講演していただき、異文化や立山についてのことを学び、来年度に向けたコースへの意欲を向上させた。 ・５月にはシンガポール高校生と「日本の社会問題」について英語でデータ分析中心の発表と意見交換・交流を行い、視点の違いや視点の違いを学んだ。なお本校出身の大学生が 7 名サポートしてくれた。そして、３月からは新たなサポート大学生を含め 7 名が、2 年人文コースのシンガポール高校生との発表会に向けてサポートを始めている。

評価	A	生徒のアンケート回答や担当者からの評価は高評価であり、多くの昨年度よりも多くの授業見学者が得られたことから、コースの活動に対して理解が深まったと考えられる。また、授業担当者による改善もすすみ、生徒自身も自分の成長を感じることができる活動内容となった。
学校関係者の意見	教科横断的な学習内容を取り入れ、人文学全般にわたって幅広い興味・関心や能力を高めることができている。また美術館・博物館での研修等、コース独自の行事を数多く取り入れ、クラス全体が協働して問題に取り組むといった面がみられ、団結力や他者を思いやるこころの涵養を含めた、全人格的な教育を行っている。	
次年度へ向けての課題	１年のうちから人文コース予定者の活動を充実させることで、２年生からのコースの活動内容を高度にすることができると考えられる。また、３年生の「文化と情報」の授業内容を計画し改善できた。今後もデータ分析を加えた考察や発表ができる、より説得力のある人材の育成を目指したプログラムを充実させていきたい。	

(　)評価基準　A：達成した　B：ほぼ達成した　C：現状維持　D：現状より悪くなった